

## 素案に対する意見と対応案について

No.	ページ	該当部分	いただいたご意見	事務局の考え方	対応案
1	P2～3	市の人口および高齢化比率の推移、図 2	H17 の国勢調査からすでに 4 年。今年が国調の年。直近の住民基本台帳の数字も入れてはどうでしょうか。(実勢から乖離している。)	異なった指標による比較は適切でないと考えています。	素案どおり
2	P6	表 1 航路の状況	航海距離を挿入してほしい。	P6 表 1「航路の状況」の表内に記載します。	修正
3	P7	大柿港の利用減	大昭汽船が一般客対象の航路開設は平成 17 年 4 月と記憶しています。それ以前は民間企業の通勤専用であり、単純に急減とするのはどうか。H21 年 4 月に航路休止しており、注釈が必要。	各港の利用者数については、港湾統計年報のデータを用いています。 また、大柿港については、理由を注釈に記載します。	修正
4	P7	図 6, 7	H20 年の数字もグラフに入れては。中田港＝中町・高田、小用港＝切串・小用（と理解しています。）、大柿港＝柿浦・大君という注釈も必要。	H20 年のデータは公表されていません。 注釈に港湾名及び棧橋名を記載します。	一部修正
5	P8	広島呉自動車道に関する記述	呉一仁保間を今年 6 月から来年 3 月まで無料実験する、という国の方針も付記したほうがよい。	現時点で把握している情報に基づいて修正します。	修正
6	P8	表 2	累積赤字も付記すべき。	年度毎の累積赤字額も記載します。	修正
7	P11	OD 調査	「起終点調査」のことだと思うのですが、語句説明が必要。	注釈に語句の説明を記載します。	修正
8	P11	図 10	H20 年の数字も入れるべき。	20 年のデータも記載します。	修正

9	P23	中町・高田～フェリー便を廃し、・・・	フェリー便の発着を中町の1箇所に限定する。	西能美航路においては、各航路の現状や乗降調査の結果などに基づいて、高速船とフェリーのすみわけにより運航の効率化や車輛運送需要の集約による収益の改善が期待されるため、フェリー便は、航路距離の短い三高港への集約が望ましいと考えています。	素案どおり
10	P23	減った便数を高速船で代替	昼間運航の高速船を小型化に機種変更させる。(他航路の中古船の購入による対応)	当面は、現在所有している高速船3隻を活用する計画です。	素案どおり
11	P23		大須へのフェリー便を廃止し小型高速船での対応	大須港については、利用実態を踏まえて合理化・効率化の検討を行います。	修正
12	P26	地域との協働により、運行計画を策定し、・・・	沖地区～飛渡瀬間(日常生活必需品の購入の為)の昼間バス(小型)便の増便	運行ルート案については、地域の方と協議の上、設定しています。	素案どおり
13	P28	フェリーにおける改札の実施について・・・	人件費削減の為の自動発券・及び自動改札システムの構築等	実施の段階において検討することになると考えています。	素案どおり
14	その他	資料として	広報で掲載した航路乗降調査結果を参考資料として添付しては。	別冊の資料編に掲載します。	素案どおり

No.	自由意見欄	事務局の考え方	対応
15	<p>(1) 海上交通について</p> <p>交通船事業の決算状況をP8に掲載していますが、フェリーと高速船別の運航採算(一般管理費など店費除く)を公表してほしい。P8に『運航経費が高速船より高コストなフェリー航路』とあるが具体的な例示をすべきである。たとえば、一航海(片道)するために必要な経費をわかりやすい表にして掲載する方法もあります。</p> <p>西能美航路のフェリー統合で実証運航をする案がでています。採算があうには現行運賃でどの程度の旅客・車両台数が必要なのか、わかりやすい説明も必要ではないか。実証運航する高速船便やフェリー便では、現行運賃でどのくらいの旅客・車両/便が必要か(モデルケース)、また、赤字とならないためには、どのくらい運賃値上げが必要かというのも例示して市民に知ってもらうことも必要です。(実際に値上げする・しないは別として。)簡単なマンガのような図を掲載してはどうでしょうか。</p>	<p>料金の設定は連携計画の中に掲載しません。</p> <p>自治会等での説明用として、別途、分かりやすい資料の作成を検討します。</p>	素案どおり

	<p>P9の表3は一般市民にとって理解しにくいもの。何を意味する表なのか分かる工夫が必要です。理解しにくい表であれば挿入しても意味がありません。民間企業の所有船舶に関するデータは掲載が難しいかもしれませんが、市所有のフェリー・高速船については、表3にかかわる数値を具体的に掲載してみても良いでしょう。燃料費では宇品－高田・中町の片道でフェリー・高速船が必要とする燃料の量と直近の平均燃料価格を使用して片道の燃料費を図解することで市民に理解していただけるものになる。また、フェリーについては三高－宇品航路ではどうなるのか、というのも併記するとよいと思います。</p>		
16	<p>(2) バス路線について</p> <p>江田島バスの概要を説明(市が97%の株主であり、実質は市営バス。)して、補助金の仕組み(第1種、2種など)も分かりやすく表記すべきである。P15の文章表記では、独立した民間企業というイメージを与えかねない。市単独の補助金は、交通船事業会計への一般会計繰出金に近い性質のものといえます。市営船と同じような仕組みで運営されているということを理解してもらう必要もあります。(一部バス車両は江田島市が増資という形で出資したお金で購入。)</p>	市と民間の出資による第3セクターであることや設立の経緯などを記載します。	修正
17	<p>(3) 全体を通して</p> <p>市民が理解しやすいものでないと作成する意味は半減すると思います。たとえば、表中にあるお金に関する数字にしてもそうです。P8の表2のH20年度の運航収益も553,799より5億5,379万円のほうが分かりやすい。人数にしても858,923より85万8,923人のほうが理解しやすい。総合連携計画が策定されれば、冊子などを作って市民に配布し、HPで公開することになります。大人だけでなく、中高生にも理解しやすく、興味を持って読んでもらい、一緒に考えてもらえるような計画書になるよう工夫することも必要だと考えます。</p>	広報等の説明用の資料は、可能な限り分かりやすい表記に努めます。	素案どおり